



平成 18 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況 (連結)

平成 17 年 8 月 5 日

会 社 名 シダックス株式会社

(J A S D A Q ・ コード番号 : 4 8 3 7)

(U R L <http://www.shidax.co.jp/>)

代 表 者 氏 職 名 代表取締役社長

志 太 勤 一

問 い 合 せ 先 責 任 者 役 職 名 取締役 経 理 財 務 本 部 長 兼 I R 担 当

氏 名 荻 野 裕

(Tel : (0 3) 5 7 8 4 - 8 9 0 9)

1 . 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高又は売上に相当する事項の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無

: 有 ・ (無)

2 . 平成 18 年 3 月期第 1 四半期業績の概況 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年 3 月期第 1 四半期	39,652	107.7	484	87.2	365	78.8	2,157	
17 年 3 月期第 1 四半期	36,813	108.9	555		463		41	
(参 考) 17 年 3 月期	155,264		3,364		2,840		127	

(注) 1. 売上高以外の四半期経営成績の開示は前四半期から行っているため、前々年同四半期については記載しておりません。

2. パーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

3. 売上高、営業利益等の数値は独立監査人の監査を受けておりません。

[売上高に関する補足説明]

事業の種類別セグメントの売上は、次のとおりであります。

平成 17 年 3 月期第 1 四半期

(単 位 : 百 万 円)

	エロジックス事業	コントラクトサービス事業	メディアサポートサービス事業	レストランカオ事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	2,746	10,472	8,812	14,580	201	36,813		36,813
(2)セグメント間の内部売上高	9,658	0			58	9,717	(9,717)	
計	12,404	10,473	8,812	14,580	260	46,531	(9,717)	36,813

平成 18 年 3 月期第 1 四半期

(単 位 : 百 万 円)

	エロジックス事業	コントラクトサービス事業	メディアサポートサービス事業	レストランカオ事業	コンビニエンス中食事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高									
(1)外部顧客に対する売上高	1,652	10,460	9,706	14,639	2,975	218	39,652		39,652
(2)セグメント間の内部売上高	9,979	15		0		176	10,171	(10,171)	
計	11,631	10,476	9,706	14,639	2,975	394	49,824	(10,171)	39,652

(エスロジックス事業)

前期に外食チェーンへの食材販売事業の一部を営業譲渡したことにより、外食チェーンへの食材販売が、前年同四半期に比べ、減少したものの、当社グループでの店舗、事業所からの食材等の要望にきめ細かく対応し導入率がアップしました。

その結果、外部顧客売上は、1,652百万円(前年同期比60.2%)となりました。

(コントラクトフードサービス事業)

シダックスフードサービス(株)、シダックスフードサービス北海道(株)、シダックスレストランマネジメント(株)及びシダックスデリカクリエイティブ(株)の4社の事業所店舗数は、1,674箇所となり、セグメント全体では、新規155箇所、撤退34箇所でした。前年同四半期末に比べて、2箇所減少しました。

前期に撤退、解約した店舗の影響により売上10,460百万円(前年同期比99.9%)となりました。

(メディカルフードサービス事業)

前年同四半期末に比較して病院・有床診療所29増、老人保健施設・特別養護等その他施設90増、合計119増の965施設となり、9,706百万円(前年同期比110.1%)となりました。

なお、既存の運営継続店の売上前年同四半期比は、100.3%であります。

(レストランカラオケ事業)

前年同四半期末に比較して繁華街型13増の55店舗、郊外型8増の252店舗、合計21増の307店舗となり14,639百万円(前年同四半期100.4%)となりました。既存の運営継続店の売上前年同四半期比は、92.0%であります。

(コンビニエンス中食事業)

当セグメントの事業は、病院、企業、官公庁、大学・短期大学、オフィスビル等において食料品、日用品、衣料品、書籍・雑誌・新聞、医療衛生用品等を販売する売店の受託運営であります。当四半期末の店舗数は318店舗、売上高は2,975百万円となりました。

(2) 当四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

固定資産の減損会計適用に伴う不採算店舗等について3,061百万円の減損損失を計上いたしました。

3. 平成18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日~平成18年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	79,000	1,700	1,600
通期	160,000	4,100	700

業績予想に関する定性的情報等

業績予想につきましては、当初予想に変更はありません。

以上

平成18年3月期 第1四半期連結決算
～ 決算補足資料 ～

1. 前下期新規連結子会社の年間寄与

前下期に新規追加された連結子会社3社 シダックスアイ(株) [旧社名 シダックスシーアンドブイ(株)]、エス・ミール(株)、エス・アイテックス(株)の損益が当期より年間寄与いたします。

2. 連結納税制度の適用

当期より連結納税制度の適用を開始いたします。

これは M&A を含む組織再編等の経営施策を機動的に実行可能とするための財務戦略の一環です。

3. 「固定資産の減損に係る会計基準」適用による特別損失の計上

連結子会社が所有する固定資産の減損処理 3,061 百万円を特別損失に計上いたしました。

セグメント区分別内訳 (単位:百万円)

コントラクト サービス事業	レストラン カラオケ 事業	その他の 事業	計
386	2,641	34	3,061

コントラクトサービス事業、レストランカラオケ事業は店舗設備、その他の事業は遊休資産の減損処理であります。

4. 入居保証金の流動化

連結子会社が所有する店舗建物に係る入居保証金の返還請求権 1,277 百万円を金融機関へ売却し、オフバランス処理を行い資金効率向上を図りました。流動化損失 149 百万円を特別損失に計上しております。

5. 第 1 四半期 連結業績の前四半期比較の増減説明

売上高 39,652 百万円、営業利益 484 百万円、経常利益 365 百万円、四半期純損失 2,157 百万円となりました。

前四半期比較で売上高 2,839 百万円増加、営業利益 71 百万円減少、経常利益 98 百万円減少、四半期純利益 2,198 百万円減少の結果となりました。

売上高増加の主な要因は、メディカルフードサービス事業が新規受託増加により 893 百万円増加、コンビニエンス中食事業が年間フル寄与で 2,975 百万円増加、エスロジックス事業が外食向け食材事業の一部営業譲渡により 1,094 百万円減少となった結果、連結ベースで 2,839 百万円増加しております。

営業利益の主な増減は、エスロジックス事業が収益構造強化により 203 百万円増加、本部費用など経費削減により 178 百万円増加、一方レストランカラオケ事業が競争激化による収益性低下で 473 百万円減少などの結果、連結ベースで 71 百万円減少となりました。レストランカラオケ事業につきましては、サービスレベルの一層の向上を図るため、多様化したお客様ニーズに応えるルーム作り、携帯電話を活用した会員制度によるマーケティング活動に加え、人材の補強、オペレーション体制整備など経営基盤強化に努めております。

四半期純利益は、上述の減損処理 3,061 百万円と流動化損失 149 百万円などで特別損失 3,232 百万円、税効果適用後税額 709 百万円などの結果 2,198 百万円減少いたしました。

第 1 四半期の結果は、平成 17 年 5 月 27 日発表の業績予想と大過なく進捗しております。

今後とも収益構造の強化に努めより一層の業容拡大を図る所存であります。